

iPS 教育研究プロジェクト・山中伸弥先生に特別講義を行っていただきました。

10月2日に、本学部卒業生でノーベル賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長山中伸弥教授による1年次、3年次対象の特別講義「iPS細胞 進捗と今後の展望」が行われました。

本来は、神戸大学にお招きして、講義を行っていただく予定にしておりましたところ、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながらオンラインでの授業となりましたが、対象学年の1年次、3年次の学生約230名が受講しました。

山中教授は、神戸大学医学部卒業後にiPS細胞を発見されたことを含めた現在までの経験談や研究成果などを交えてご講義されました。ご自身の経験から「チャンスがあれば、アメリカ、ヨーロッパ等、外から日本を見る経験をしてほしい。そのための英語力を磨いてほしい。」と、学生へ力強いメッセージを残されました。



最後に、藤澤医学部長からも、受講学生に対して「活躍の舞台は世界です。感染症が蔓延する状況ですが、少しでもチャンスがあれば、留学をしてほしい。」と、大きな期待をもった言葉がありました。

今回の特別講義は、1年次には医学に対する意欲や神戸大学に入学したことへの喜びと誇りをさらに大きく喚起することを目的とした『iPS教育研究プロジェクト』の1つでもありました。

昭和24年度ご卒業の坂上明先生から、母校から第二、第三の山中教授のような世界的に活躍する研究者を輩出してほしいとの願いから、多額の寄付をいただいております。今回の予習のために「山中iPS細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう」(一灯社)を、特別講義の1月前に、1年次全員に配付することができました。



また、山中教授のもとでiPS細胞の研究を行っていたiPS細胞応用医学分野、科学技術イノベーション研究科の青井貴之教授にご協力をお願いし、2日間にわたって、事前の講義を行っていただき、予備知識をもって、特別授業に臨めるようにしました。

本プロジェクト終了後に1年次学生から、アンケート調査を実施したところ8割の学生が「医学研究」に興味を持ち、自分も将来、医学に貢献したいと思ったとの結果が得られました。

貴重な経験ができた、医学を学ぶ意義を確認できたなど、前向きな意見が多数寄せられ、「青井先生の講義で医学研究の幅広さを知り、山中先生の講義でその研究の応用について学び、難病といわれる病気に対して、将来研究が進み、治療可能となることを期待し、その一端を担っていきたい。」との力強い言葉もありました。

坂上明先生から寄贈いただいた「山中iPS細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう」(一灯社)は、最終的には附属図書館医学分館で保管され、翌年度以降の講義にも利用される予定です。

山中教授からご講演終了後も、来年はぜひ神戸に来て、対面で講演したいとお言葉も賜りました。

医学部医学科では、このようなプロジェクトを継続して、運営できるように努力していきます。